

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「心の触れ合いと笑顔を大切に」という施設理念を各ユニット・正面玄関に掲示するとともに、新入職員にはオリエンテーションの中で、施設理念に関する講義に盛り込むとともに、業務中も利用者や御家族が来訪された際、意識して対応するよう心掛けている。	複合施設理念と共に、心地よい暮らしの提供などユニット目標を掲示している。利用者の様子がいつもと違うときなどは、理念をその都度確認し、ユニット会やカンファレンスの中で職員が共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会運営の避難訓練に参加させていた だいている。暮れの餅つき大会、冬場の雪 かきなど例年行事は地域の方々と共に 行っている	日頃買い物や散歩に出た時、高島城祭の時などでは、知り合いに会ったり地域との交流が図られている。地域の例年行事には日常的に参加し、事業所の餅つき大会は近所の方をお誘いし、鏡餅もお届けしているなど交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	民生委員や各自治区の見学等御受入れている。また施設長自らが、実習担当として福祉大学の講師や実習指導を務め、地域貢献の一助としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	年4回開催している。会議ではご利用者状況や職員構成、職員研修報告や、事故・苦情・行事等の報告をさせて頂き、委員の皆様より頂いた意見を介護サービスの運営に活かしている。	事業所の状況や利用者の生活の様子、地域との連携など報告し意見をいただいている。地区の福社会長や民生委員などの参加があり、地域の相談を受けたり、情報交換を行い、相互連携を築くようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議はもちろん、行政主催の学習会や広域連合との連携を図っている。また今年度は何でも相談員の受け入れを行い実情をお伝えすることができた。	制度のことや入居に関してなどでは相談に出向いている。なんでも相談員も定期的に受け入れ話し合いを行っており、継続して市町村との関係を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営規定や重要事項説明書に明文化している。また入職時のオリエンテーションや施設内研修で「身体拘束廃止」の講座を取り入れ勉強会を実施している。拘束廃止委員会も設置し、法人全体として取り組んでいる。	施設内研修や拘束委員会も設置されており、全体として取り組んでいる。どのようなケアをするかはカンファレンスで常に確認し共有し、新聞記事なども利用して拘束をしないケアについて話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に高齢者虐待防止関連の情報を収集し、他施設で起きてしまった虐待例を職員掲示板に掲示、回覧し職員に周知している。また日々の業務の中でも虐待が見過ごされることのないようスタッフへ周知し、虐待予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフは成年後見制度を利用している方がいる事は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	その都度十分な時間を確保し、キーパーソンになられる方はもとより、できる限り介護に参加されている方に対して説明が行えるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関窓口に苦情・要望受付箱を設置し、苦情があった場合にはユニットおよび幹部会で話し合い、改善策や回答を掲示している。1年に1回ご利用者様満足度調査アンケートを実施し、頂いた内容についての回答も掲示している。苦情・要望受付簿の内容やアンケート結果については運営推進会議においても報告している。	利用者満足度調査アンケートを行ったり聞き取りをして意見を聞き、改善策や回答は掲示したり、家族には直接伝えている。運営委員会でも報告し、出された意見は職員間で話し合っており、サービス向上に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会や各種委員会にはできるだけ施設長が参加し、職員の意見や要望を聞き施設運営に活用している。また必要であれば個人面談も行い職員の率直な思いも聴いている	職員は理念に沿った目標を掲げ、実践につなげるよう努めており、ユニット会や職員アンケートなどを通じて意見を出している。必要時には個人面談もあり、職員意見は運営に生かされている。	意見や課題に対しては評価や分析を行い、更にスキルアップを目指してサービスの向上につなげて頂きたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月に1回、幹部会義を開き運営実績の報告や業績について労いの言葉をかけている。また、人事効果も取り入れて評価している。やりがいや向上心がもてるよう、有休を適宜取り入れた業務改善を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で実施している施設内研修や、複合施設で勉強会を企画、立案し職員の教育に力を入れている。また、外部研修にも積極的に参加し伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同一法人内での交流は行っている。他施設で運営されている事業所との交は少ない。外部研修や、施設内での研修に参加し、同業者との交流や自己研鑽に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	1対1の対応を心がけ居室でゆっくり話をして本人の思いを傾聴している。スタッフと入居者の信頼関係が構築できるよう日々努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	来居された際にご家族からの意向を聞き入れ希望に沿うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人のできる能力が継続できるように職員はサポートし入居者と職員が共同で行うことのできる事、出来ない事の把握をして支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人のできる能力が継続できるように職員はサポートし入居者と職員が共同で行うことのできる事、出来ない事の把握をして支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来居の際には普段の生活の様子をお伝えしている。ご家族との対話を大切に本人、家族から希望を聞いている。遠方の方には定期的に電話連絡をして情報の共有をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御近所や親戚の方の来訪を快く受け入れ本人とゆっくり過ごす時間が持てるように時間の確保、環境配慮を行っている。	行きつけの美容院へ行く、家族と外食に行く、花火を見に行くなどして、家族や親せき近所との関係が切れないよう支援している。来訪時にはゆっくりくつろげるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士スムーズに関われるようにスタッフが間に入りコミュニケーションの橋渡しになったり入居者同士の関係が保てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に行かれたり入院した場合においても家族からの問い合わせ相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人一人に担当制をとっている。定期的にカンファレンスを開きニーズについて情報の共有、共通認識が持てるようにしている。また申し送りの中でミニカンファ形式をとり検討するようにしている	担当制をとっているが、その時々で言いやすく話やすい職員が声をかけて聞き出している。入浴時には一対一になるのでゆっくり話を聞くよう努めている。言葉にできない利用者では家族から話を聞き、職員で共有して検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談で聞き取りを行ったり在宅CM、在宅サービスの関係者より情報収集をしている。家族から昔話を聞いたり本人からも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	大まかな1日のスケジュールはあるが、本人の1日の過ごし方、生活リズムを尊重し対応している。それぞれの身体状況に合わせ生活に無理がないように本人のペースに合わせるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者を中心に定期的にカンファレンスを開催し本人の意向、ケアの方向性、ニーズについて確認し修正を行っている。カンファレンスの前にはご家族、本人に意向確認をしプランに反映させている。	利用者や家族から話を聞きながら、職員全員で話し合って計画を作成している。事業所内での、「私のできることできないことシート」を活用し、利用者のやりたいことを拾い出し、一人一人の課題を出して計画作成に生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	支援経過記録を通しその日の状態を職員が把握し情報を共有し申し送りで伝達できている。状態に変化があればカンファレンスを開きプランの見直しをするように心がけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員が対応できることは対応している。家族が遠方で対応困難なケースでは受診通院介助、市の健康診断を受けるための付添い等、柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	施設周囲のスーパーやドラッグストアに出かけたり催し物、地域のお祭りなどに参加し楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	在宅の主治医を継続し医療介護の連携表を活用して主治医との連携を図っている。家族の都合や身体状況の変化で往診に切り替える方も主治医と往診医との連携の下スムーズに移行できるよう支援している。	「医療介護の連携表」を持って家族と受診し、主治医から返書を頂き、情報は家族と共有する中で適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の健康管理、日常生活の様子が掴めるように介護と看護の連携を図っている。少しの体調の変化や不安に思うことも看護師に連絡をして相談している。看護師は情報を基に状況を把握し主治医に報告し受診に繋げたり医師からの指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後早い段階で入院先の医療相談室に連絡を取り病状や経過の把握に努めている。またご家族様と連絡を取り本人の体調についてお聞きしている。退院時は入院先のSWと連携しスムーズな退院支援の連携を図っている。退院前のカンファレンスに参加し情報共有、退院後の生活について話し合いの場のもうけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期の在り方について家族に意向確認をしている。その後は1年に1回家族に意向確認をしている。本人・家族の意向に沿えるようGHのできる限りの支援に心掛けている	重度になり他施設に移動する利用者もいる。意向確認書で利用者や家族の意向を確認し、方向性について情報共有し、事業所のできる限りの支援につなげている。看取り委員会もあり、職員が学ぶ機会がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入職時のオリエンテーション、施設内研修で急変、事故発生時の対応について研修を受け学習している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	入職時のオリエンテーションや、年2回の避難訓練と水防訓練を地域の方の協力を得て行なっている。今年度は夜間想定での訓練を行った。	事業所内の訓練を年2回行っている。利用者も参加して利用者の動きを見ながら、避難の方法や順番など確認した。結果はまとめ、課題についても話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩であることを理解し言葉遣いに注意して対応している。	接遇など研修もありマニュアルも作成されている。利用者には敬意の気持ちをもって接し、特に言葉づかいには気を付けている。不適切な対応があればその都度対応し改善につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の様々な場面において利用者が自己決定できる様支援している。迷わないようにいくつか選択肢を提示し自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々のレクリエーションの中で何がしたいか？どこに出かけたいかなどお聞きし希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容、整髪に配慮。リビングに出向く前は身だしなみの確認をしている。日常着の選択ができるように本人に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	厨房からの食事提供でメニューを決定している。ユニットでは入居者の嗜好をお聞きしお寿司を注文したり、お昼に入居者様の希望をお聞きし手作り昼食・おやつを持っている。共に準備から片付けまで行っている。	行事に合わせてお寿司をとったり、おやつ作りを楽しんだりして、食事を楽しむ配慮がされている。思考調査や献立の説明もあり希望が取り入れられている。できる利用者は配膳など一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・おやつの摂取量水分量を把握している。食事摂取が少ない時には管理栄養士に相談して補食を検討し、必要時御家族に購入の御協力をお願いしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人一人の口腔ケアに関わり必要な支援をしている。歯科衛生士と連携しアドバイスを受けてたり必要時には歯科往診へ繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ワークシートを活用しながらトイレ誘導を行いトイレでの排泄を心掛けている。一人一人の排泄時間を確認しながら、出来るだけ汚染が少なくなる様支援している。	職員は「こうやったらよかったよ」などと利用者の情報を共有し、トイレでの排泄を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	必要時は看護師、医師に相談しながら下剤の内服を行っている。そのほか、食事形態の工夫や適度な運動・飲水等に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	早朝や夜間の入浴はできていないが入浴日や時間は決めずに、出来る限りご本人の希望に沿える様日々努力している。	毎日入りたい利用者は毎日入り、時間も午前や午後で自由に決めて入浴している。見守りで入浴するが、利用者の気持ちに合わせて様子を見ながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	午睡などご本人の生活習慣に合わせて休める様支援している。安心して眠れるよう声掛けをしたり、眠れない時はお茶を提供したり話を聞くなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服の目的や副作用などについてファイルにまとめスタッフの目の届く場所に置き、時間のある時目を通せる様配置している。食前食後薬・点眼など区別し間違えないよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の生活歴や趣向に合わせて役割が持てるよう作業などの提供をしている。また、得意なことや趣味を生かせるような余暇時間が過ごせるよう工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩の機会を持つよう心掛けている。ご本人の希望を聞いたり、時には外食に出かけられている。また、ご家族の方に協力して頂き外出の機会を設けている。	外へ行きたいといった時には「待って」と言わないで対応するようにして付き添っている。欲しい物がある時は、ドラッグストアや衣料品店など車でも出かける。冬場でも散歩を心掛けており、外気に触れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額を入居者の希望により自己管理している方もいる。普段は事業所で管理している方も買い物の際自分で支払が行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には電話がかけられるよう支援している。年賀状などはご本人の希望を聞いて書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度調節・遮光など心地よい環境が作れるよう配慮している。季節感を味わって頂けるようにユニット内に装飾品を飾り、見て楽しんで頂けるよう工夫している。	日差しが強いので遮光や温度管理に注意をは立っている。家族が届けてくれる花があったり、季節ごとの作品があったり、楽しんで心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースで一人で過ごせる場所は少ないが、居室でゆっくり過ごして頂けるよう支援している。また、ゆっくりくつろいでいただけるようお茶・コーヒーなども提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人やご家族と相談しながら家電やカーペットを持参して頂き、ご本人の過ごしやすい環境を整えられるよう配慮している。	ベッドやいすテーブルを利用者が使いやすく動きやすく配置し、使い慣れたタンスなど持ち込んで落ち着いて居室を工夫している。仏壇は利用者の心の安定にもつながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の入居者が安全に自立した生活ができるよう環境整備を行っている。また、表札などを作り場所の確認ができるよう工夫している。		